

文学教材で 「自分の 考え」 を形成する

近年実施された学力調査の結果や、「新しい学習指導要領」にも示されているとおり、これからの教育は、「自分の考え」を形成することが、一層重視されます。

本特集では、まず理論編として、上谷順三郎先生に、「文学教材で『自分の考え』をもつことの意味」や「発達段階に応じた『自分の考え』のもち方」などについて、Q & A形式でお答えいただきます。そして、実践編では、文学教材の実践事例を通して、「自分の考え」を形成する過程を紹介いたします。

「自分の考え」の形成に関するQ & A

回答者 ● 鹿児島大学教授

上谷順三郎

説明文教材で「自分の考え」をもつことと、
文学教材で「自分の考え」をもつことは違うのでしょうか。

A 結論から言えば、両者は違います。
だからまた、それぞれの意義があ

るということになります。
何が違うかというと、書き手の位置づけ

が違うのです。説明文の場合は、書き手である筆者と文章中の話者は同じです。筆者は自分の考えを自分のこととしてそのまま書くので、その文章を読むとき、私たちは筆者その人の話を聞くような感じになります。つまり、書き手と読み手は「対一」の関係になり、私たちは「聞いて考える」よう

な状態になるのです。

それに対して文学の場合は、書き手である作者と文章中の話者（語り手）は異なります。これが最も大きな違いです。この前提に立つので、文学を読むとき、私たちは作者その人の話を聞くという感じではなく、作者が設定している舞台を見ているような感じになります。作者はいわゆる脚本家のようなもので、語り手は脚本を具体化する舞台の演出家のようなものです。つまり、文学を読むときには、作者と私たちの間に語り手が入るので、私たちはその語り手を通して作品を読むことになるのです。それを「見る」ようなものと言ったわけです。

したがって、説明文教材で「自分の考え」をもつ場合、それは「対一」である人の話を聞いて、その人の考えに対して自分はどう考えるのか、という形を取るようになります。それに対して、文学教材で「自分の考え」をもつ場合、それは舞台を見る、語りを聞く、という感じになり、私たちはそういう舞台の中の人々の言葉や行動を見て、それらはどういうことなのかを自分でまず理解します。そのうえでそのことは自分にとってどういうことなのかを考える、という形を取るようになります。

説明文教材では書かれていることに対し

て直接的に反応していく、文学教材では間接的に反応していくということでもあります。たとえば魯迅の「故郷」（三年）では、私たちは、魯迅の話や考えを直接聞いて「自分の考え」をもつわけではありません。「故郷」

新しい学習指導要領では、各学年の発達段階に応じた
「自分の考え」のもち方が示されています。
それぞれの学年の指導のポイントを教えてください。

A 『中学校学習指導要領解説 国語編』をもとに整理してみましよう。

書かれていることを読んで自分の考えをもつことについて、まずその形式面への反応として次のように示されています。

第1学年…文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。

第2学年…文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

第3学年…文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。

私はこれらを対「自分」、対「対象」、対「相手」の三段階としてとらえます。つまり、自分の考えを自覚化する段階から、対象を客観化する段階、そして自分の考えを相対化する段階として見るわけです。

また内容面への反応として示されているのは次のことです。

第1学年…文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの

見方や考え方を広くすること。

第2学年…文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。

第3学年…文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

言語活動例と対応させて眺めると、さまざまな種類の文章を読んで知識や体験を増やし、詩歌や物語などを読み比べながら自分の考えと関連付ける。そして、小説で求められるような全体的な視野から考える力をつけていく。私はそのような段階としてとらえたいと思います。

「大人になれなかった弟たちに……」（一年）と「字のないはがき」（二年）は、小学校での平和教材の学習の蓄積を引き継ぎながらも、兄や姉としての自覚化へ意識を向けさせる教材です。また、「少年の日の思い出」（二年）は、「わたし」と友人、その友人「僕」の回想を読むことを通して、自分を客観化し、自分だったらどうするかという問いを突きつけてきます。そして、

「走れメロス」（二年）は、その「少年の日の思い出」と友人関係を軸にしている点で共通しつつ、三人称で対象化していくという形式の作品です。また、「故郷」では一人称で語られることで、これら三作品を比べ、相対化して読み直すことを可能にして

3 Q 新しい学習指導要領では、自分の考えの形成に関する指導事項として、三年生に「評価」という項目が示されています。どのように考えたらよいのでしょうか。

A 今回、「改訂の要点」の一つに「学習過程の明確化」があり、「読むこと」の中に「自分の考えの形成」が位置づけられています。また、「読書活動の充実」という項目もあり、ここでは「自分の考えを記述」することが示されています。つまり、自分の考えをもつことからそれを記述することまでが求められているのです。

ですから、三年生の「評価」は、それまでの「読むこと」の学習や読書活動をふまえて行なわれるということに留意すべきでしょう。そうすると、読み手としての自分の力ほどのくらいあるのかを吟味すること

くれます。ここまで学習すると、「読書活動の充実」（改訂の要点）で重視していること、すなわち、読んだり読み比べたりしたことをもとに自分の考えを記述することもできるはずです。

はもちろんのこと、書き手としての自分の力についても自覚させたいということになります。

ただ、文学教材に限って言えば、詩歌、物語・小説などのジャンルごとの形式的特徴について理解したこと、それらが読み手に及ぼす効果について考えてきたこと、そして実体験との比較を通して感じたことなどを振り返って、今の「自分」を確かめるということが「評価」の中身になると思います。そのような評価ができるように、三年間の指導計画や学習方法の工夫を図ることが求められているのではないのでしょうか。

4 Q

「自分の考え」をもち、広げるといことは、他教科でも求められる力ですが、文学教材を扱う中で、国語科として押さえておくべきポイントは何でしょうか。

A 文学教材を扱う授業は、国語科独自のものといっているでしょう。したがって、いったい子どもたちはどのような教材と出会っているのか、そしてどのような感性や思考を身に付けていくのかを考えておく必要があります。

小学校から中学校にかけての文学教材では、たとえば次のようなジャンルが展開されています。一つは詩歌の流れ。もう一つの大きな流れは物語です。その特徴はというと、詩歌は、基本的に一人称による作品ですから、作者の側、つまり作り手の側に立った理解や発想が中心となります。そこでの「自分の考え」は作者による創作を追体験すること、もし自分だったという形で連想する間接体験です。そのように「想像する」ことによる思考が働くのが詩歌の学習です。

もう一つの物語系列では、三人称から一人称へと大きな流れがあります。三人称による作品では、語られているものを読む体験をします。ただし、その語り方には

三通りあって、最初に多く出てくるのは、「三人称全知視点」によるもので、どの登場人物が何を考えたり感じたりしているかがわかるように書かれます。そしてもう一つ、初期に多い教材は「三人称客観視点」によるものです。これは登場人物の言動を眺めている書き方なので、芝居を見ているのと似ていて、読者である私たちはそれぞれの登場人物の気持ちや人物関係を想像して理解していくことになります。三つ目は「三人称限定視点」です。ある登場人物を中心に書かれているもので、私たちはその人物の目を通して作品世界を見ていきます。

そのため、その人物がどういう人物かを理解しながら、その人物の立場で物事を考えていくことになります。その人物なりのものの見方・考え方に対して違和感を感じる場合もあり、とにかく、一人の人物にしっかり付き合うことになるわけです。たとえば「走れメロス」がこれにあたります。

この三人称限定視点と似ているのが、一人称の作品です。私たちは中心人物（主人

公）のつもりになって、感情移入しながら作品世界の中を生きていきます。前述の三人称限定視点がある人と「付き合う」感じなのに対して、こちらの一人称の場合は、その人の「代わりに」動いてみる感じになります。たとえば、「大人になれなかった弟たちに……」「少年の日の思い出」「字のないはがき」「故郷」がこれにあたります。

以上のように、小学校からの文学教材の学習経験において、さまざまな虚構の設定を体験し、子どもたちはその設定の中で感じたり考えたりする体験を積んでいます。つまり、文学教材の学習で人生の体験を先取りするように想像して考えたり、自分の過去の体験と比べて考えたり、予想したり振り返ったりという思考こそが国語科として大切なポイントだと考えます。

上谷 順三郎
かみたに じゅんさぶろう

1962年鹿児島県生まれ。鹿児島大学教授。著書に、『読者論で国語の授業を見直す』（明治図書）、『「読者論」に立つ読みの指導』、『国語教育研究の現代的視点』（ともに共著、東洋館出版社）などがある。

自分の考えを
確認しながら読む

「走れメロス」(二年)――

新しい指導を考える会

1 文学作品を読み進めながら「考える力」を高める

本校の図書館の利用状況を見ると、ファンタジーなど気軽に読める作品の貸し出しは多いが、近代小説の棚は、ほとんど動きがない。その理由としては、言葉のハードルの高さが考えられる。近代小説の中の言葉は、中学生にとつて古典と変わらないのである。だからこそ、国語科の授業で近代小説を教材として読み、豊かな感情と結びつけた美しい言葉を学ばせたいと思う。さらに、登場人物の心情や書き手のものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けることによって、小説を読む楽しさを実感させたい。教材をこのように読むことで、主体的な読書活動につなげることが可能になると考える。

2 実践のポイント
(全5時間)

「走れメロス」は長年にわたって教科書に掲載されているたいへんなじみ深い作品である。教科書では、絵も含めて十七ページほどの短編であるが、中学生にとっては読むだけで概ね一単位時間(五十分)かかってしまうため、そう簡単に読みこなせる作品とは言い難い。

「走れメロス」は、登場人物、描写や表現場面設定など、さまざまな視点から指導したい作品である。しかし、今回は、学習者の実態から、「自分の考えを確認しながら読む」という学習過程を考えた。一斉授業の場合、とすると「人任せ」になりがちな読みを、「自分として」はどう読むのかということを確認しながら読み進めるのである。また、随時、読みの交流をしながら

3 実践を終えて

ができるよう工夫した。また、読み進めながら感想を交換する際には、「なんとなく」そう思うのではなく、文章の内容や展開に根拠や理由を求めることで、文章から離れることを回避した。

学習シート①では、初読後最も印象に残った登場人物を記入させた（2時間目）。その際、「なぜその人物が心に残っているのか」という理由を書かせた。ここが本実践のポイントである。学習後にもう一度、同じ内容で記述させている。たとえば、「心に残った人物」が同じでも、「その理由」に記述された内容は変化するはずである。文章を主体的に考えながら読み進める中で、より深く登場人物の心情や生き方に迫ることができ、自分の考えが鮮明になってくるからである。

学習シート②は、文章を読み進める際に使用した(3・4時間目)。短い時間でストーリーを把握するために、書き込み式のシートを用意した。臨場感を持たせながら読み進め、最後の場面のメロス・セリヌンティウス・王の心情を自分なりに読み取ること

初読後と学習後に、いちばん心に残った登場人物について、理由を添えて書かせてみた。結果として「メロス→セリヌンティウス」など、取り上げる人物が変化した学習者もいれば、同じ人物を挙げた学習者もいた。しかし、ここで重要なことは、変化したかどうかではなく、「理由」の記述の変化である。例えば、メロスが心に残った学習者の理由は、「勇気がある」から「いくつもの障害を乗り越えて約束を守り、王の気持ちを变えた」というように深まっていた。また、「この学習を通して考えたこと」の欄には「信じられているという自信がある関係は強い」というように、考えを一般化して記述している学習者が多く見られた。また、「だから私も」と自分の生き方に結びつけて記述している学習者もいて、「自分の考えを確認しながら読む」ことで読みを深めることができることを確認できた。

▼学習シート①

[illegible]

▼学習シート②

[illegible][illegible]

メロスは前に会った……、
スは彼等の二つとよく別境に異人した。

セリマンティウスの顔はだかた。

ス
セリマンティウスとメロスは互いにほおを磨り合った。
⑤ なげきながら立ち上がり、膝のつたのひきよ。

ふたりにつぎとつぎとくなくつたが、

それを見ていた人は……

⑥ 彼は、おぼろげに物陰の一人にたてはいて、うしろをうかがひながら、
⑦ 痛むやうにうめをうめ、友達がすばしりとおどろかす。

⑧ ふたりの口をきいて、傷心した顔の人物はだれです。

セリマンティウス。

⑨ その聲は耳にきこえよう。

最後、セリマンティウスを信じにたがうことになった。
うしろの仲より友達はもかたうたらセリマンティウス
の腹はなごりなりと聞きう。

⑩ 「あれメロスこそ頼んで来た」と思ふ。

人に信じてゐることは大切なことだと思ふ。友達はう
ちがてしまつてゐるが、あります。それから自分か
相手を信じて。

「読み」のパターンに 疑問をもつ

―「高瀬舟」(三年)を中心に―

新しい指導を考える会

1 「自分の考えをもつ」こと

「少年の日の思い出」(一年)を読むと、次のような感想が多く寄せられる。

「エーミールは子どもらしくなくて、ちよっとイヤなヤツだ」思う。自分の収集したものを全部あげると言っても許してもらえなかった主人公はかわいそうだ。」

「少年の日の思い出」に限らず、「走れメロス」(二年)や「故郷」(三年)などにおいても、誰もがはまってしまう「読み」のパターンが決まっている。多くの生徒たちがはまってしまうこうした「読み」に対して疑問を投げかけることはできないだろうか？

「少年の日の思い出」の場合には、主人公の「僕」が語り手であり、しかも、大人になった現在でもエーミールのことを憎ん

でいる。それゆえに多くの生徒が先に示したような「読み」にはまってしまう。「自分の考えをもつ」ということは、このよう

な誰もがはまる「読み」に対して、「本当にそうなのだろうか」と自問できること、別の視点からの「読み」の可能性を考えることである。これはPISA型読解力という「熟考・評価」につながる力である。今回の実践では「高瀬舟」を扱ってみた。

「高瀬舟」は主人公喜助の独白が中心に書かれているため、喜助の考えに同情的な読みにはまることが予想される。そこで、この単元では、新しい学習指導要領「第3学年『C読むこと』ウ」にある「読み比べ」を実践してみた。「高瀬舟」に『ブラック・ジャック』(以下『BJ』と記す)をぶつけることで、生徒の「読み」に揺さぶりをかけようと考えたのである。『BJ』の中

2 単元「考えを深める」

(全3時間)

(1)育成を目指す言語能力・主たる

評価規準

○テキストと自分の考えを関連づけて表現する能力

国語への関心・意欲・態度	作品の主題に対する自分の考えを伝えようとしている。
読む能力	文章を読み、人間や社会について自分の考えをもっている。(エ)
言語についての知識・理解・技能	抽象的な概念などを表す語句について理解を深めている。

(2)題材 「高瀬舟」森鷗外

『ブラック・ジャック第3巻「ふたりの黒い医者」』手塚治虫(秋田書店)

(3)単元の評価規準と指導計画

時	主たる規準およびAの状況を実現していると判断する際のキーワード	主たる学習活動
1	「高瀬舟」を読み、自分の感想をもっている。 A的確な引用、自分の体験に基づいた感想、的確な主題のとらえ	①ガイダンスを聞き、単元における自分の目標を立てる。 ②通読を聞き、初発の感想を書く。
2	「高瀬舟」と『BJ』の共通点を考えている。 A共通点の指摘、作品中の表現的確な引用	③『BJ』を読み、「高瀬舟」との共通点を考える。 ④共通点について意見交換をする。
3	立場を明らかにして自分の考えを書いている。 A的確な根拠の引用、意見交流を生かした記述、二つの立場からの考察、考察の深まり	⑤「高瀬舟」について自分の考えを、「喜助への手紙」として書く。

(4)学習の姿

下記資料1は、「高瀬舟」と『BJ』を読み比べたあとの第3時に生徒が書いた「喜助への手紙」である。喜助に対して同情の念を寄せながらも、命というものに対する自分の考えを伝えようとしていることが伝わってくる。

3 まとめ

この単元はPISA型読解力を意識して実践したものである。文学教材を扱っていくときには、「読む↓考える↓表現する」という読解のプロセスを意識するとともに、作品全体をふまえた課題設定が必要であると考えている。

資料1

喜助さんへ
突然のお手紙、お許しください。
私は、「高瀬舟」を読んで初めて喜助さんを知りました。そして、私が喜助さんに思ったことが二つあります。
一つ目に、その時の喜助さんの感情です。「存知ないと思います」が、「ブラック・ジャック」という漫画にキリコという人物が出てきます。その人は、お金をもらって人を安楽死させている人物です。実質、喜助さんとキリコは同じことをしていました。しかし、二人は全く違うと私は思います。キリコはお金をもらい、自分のために人を殺します。でも、喜助さんは大切な弟さんのために罪を犯しました。「人殺しなのは変わりない。」そう言う人もいると思います。いえ、実際いました。しかし、私はそうは思いません。愛情が含まれているものと、自分の欲としては全く違うと思うのです。
二つ目に、弟さんの状態です。自分で喉を切り、自殺をしようとした弟さんの気持ちもよく分かります。お兄さんの喜助さんに、迷惑をかけたくなかったのだでしょう。でも、そのことがきっかけで、喜助さんは島流しにあいました。もし、弟さんが喉を切らなかったら、喉を切ったとしても、喜助さんが医者を呼んできていたら、何か変わっていたかもしれません。喜助さんに余裕のあるお金がない

のも充分わかっています。しかし、それでも、私は医者を呼んでいたら、と考えました。奇跡が起きて弟さんが回復するかもしれない。そう思うと、少し残念です。たとえ大切な弟さんの頼みでも、もうちよっとあきらめないで、粘ってほしかったのです。
一つ目と二つ目、少し矛盾してしまいました。しかし、結論的に言つと、「喜助さんの愛情は兄として正しかった。けれども、命は一つのものなので、簡単には消してはいけないことを分かってほしい。」ということです。
気を悪くしたら、ごめんなさい。いつまでも弟さんのことを忘れな

